

( ):委員名(敬称略)

現況について		問題点と課題について	提案されている対応策など
<p><b>全般的に</b> 京都府内でもっとも交通の利便性が高い町村である(湯瀬)                      健康者は現在の地域公共交通で十分だが、要介護者、身体障害者等の移動制約者のニーズに対応できていない(川戸)</p> <p>高齢化の進展、新開発地への子育て世代の来住などによる交通弱者の増加に、町内の既存の公共交通体系では対応出来なくなっている(山口・川戸・有賀)</p>	<p>町内の居住域のほとんどは各バス停中心の500mの円内におさまる</p>	<p>広域行政の一環として地域公共交通は乙訓地域全体での循環が必要(加賀野)</p> <p>移動制約者のニーズへの対応策が必要(川戸)</p>	<p>乙訓圏域での福祉有償輸送の協議をおこなう運営委員会の設置(川戸)</p> <p>助成策と既存の公共交通資源(長寿苑バス・タクシー)を生かした、町内重点地域を巡回する交通(川戸)</p> <p>身体障害者協会会員の切実な期待に応える費用、コース、巡回回数など詰める(小西)</p>
<p><b>町民の交通目的地</b> 住居地であって求心性がなく、町民の交通の目的地は町の内外に分散している(昨年度調査)</p> <p>町内での移動が不便で、むしろ長岡京へのアクセスが便利な状態(吉田)</p>	<p>町内では駅周辺、役場周辺、商店などに分散している低年齢層を除いて、通勤・通学をはじめ、通院や買い物など町外との関わりが圧倒的に多い</p> <p>とりわけ北部町域からは長岡京市への流出が顕著</p>	<p>既存の道路網を生かしつつ、全町を網羅する交通手段が必要(山口)</p> <p>交通弱者のモビリティの向上(有賀)</p>	<p>全町民が気軽に利用できる「まちのあし」としてニーズの高い目的地を巡回させる(川戸)</p> <p>コミュニティバスのルート案検討のワークショップ(山口)</p>
<p><b>鉄道</b> 狭い町域にもかかわらず2本の鉄道と二つの駅があり広域交通網に連結されていて本数も多く便利である(湯瀬・笠松・平野・有賀)</p> <p>駅が南部に偏心していて北部からの利用が困難→長岡京駅の利用</p> <p>駅前広場の整備が不十分で、公共交通同士のネットワークが阻害され、利便性の低下につながっている(平野)</p>	<p>外来者にとって町内での交通網が不備で鉄道は通過駅になっている(吉田)</p> <p>阪急新駅の開設によって北部域も徒歩圏になる(湯瀬・平井・川崎・有賀)</p>	<p>需要の大小に関わらず将来的には町内各所から役場や鉄道駅への移手段を確保すべき(吉田)</p> <p>鉄道3駅を持つことになるメリットを生かし、来訪者を増やして街の活性化にもつながる地域交通体系の組み立てが望まれる(有賀)</p>	<p>駅及びその周辺でのバリアフリー化・道路整備(平野・小西・平井)</p>
<p><b>路線バス</b> 本来鉄道駅へのアクセス手段として存在理由があるバス路線が住宅地所在状況や道路事情によって鉄道と並行、競合している(河崎)</p> <p>全体的に本数が少なく、一部の地区を除いてバスが利用しづらい環境になっている(平野・有賀)</p>	<p>バス事業を取り巻く環境が厳しくなり地域公共交通としての維持が困難になっている(河崎)</p> <p>通院・買い物などの送迎はマイカーによることになる(平井)</p>	<p>「都市計画マスタープラン」「バリアフリー基本構想」等で提唱されている生活拠点(まちのエントランス)としての駅前整備が望ましい(平野)</p> <p>駅のバリアフリー化と駅周辺への商業集積による多目的化(小西・平井)</p> <p>昨年度に「路線バスの利用促進について」大山崎町へ提案済</p> <p>路線バスを補完する公共交通システムが必要</p> <p>「高齢者の運転免許自主返納制度」の実施とバス料金減額の併用による高齢ドライバーによる交通事故防止とバス利用の促進(向日町警察)</p>	<p>既存の送迎バスを連担・組合わせ・統合を試みる「大山崎モデル」の検討依頼とさしあたりの長寿苑ウグイス号のコミュニティバス化(有賀)</p>
<p><b>タクシー</b> タクシー会社があり、駅前にタクシーが駐留しているのは有難い(野村)</p>	<p>国土交通行政の管轄化に置かれたタクシー事業者にとって、新たな公的な地域交通の導入は民業圧迫的な状況に置かれることになる(筒井)</p>	<p>ドア・ツー・ドア交通としてのタクシー利用の必要性とそれに対する補助策の検討(山口)</p>	<p>乗り換え困難など補完的な公共交通でもカバーできない交通弱者へのタクシー補助制度などの検討と高齢者福祉計画や地域自主防災計画など一体になった互助的な制度、ソフトな施策の検討(有賀)</p>
<p><b>道路</b> 名神と大山崎ICや第2外環、171号線などがあり、自動車での広域道路交通に便利である(野村)</p> <p>狭い道路が多く、とりわけバス交通に適した道路が限られている(湯瀬・河崎)</p> <p>児童や高齢者の安全な歩行、車椅子や自転車の移動などに支障が多い(小西)</p>	<p>生活道路としては役立っていない 逆に町内の生活道路への通過交通の侵入がある(山口・野村)</p>	<p>道路整備こそが優先課題(小西)</p> <p>事故防止や要介護者・身体障害者の移動に対するボランティアにとどまらない町民全体の関心と援助(川戸)</p>	